

句集
をりをりに

波田美智子



京見ゆる暮しに慣れて花菜漬

母よりの法事の案内豆の花

コスモスや気性の合はぬ妹と会ふ

紅梅や白寿の叔母の耳ゆたか

野路菊や妹乳房切ると言ふ

叱り呉る母まだありて夏燕

旅にある夫のやさしき翳雲

お互ひに一病持ちて年明くる

ふたりゐて忘れ易くてところてん

守宮らの覗きに来たる隠居部屋

爺婆のそれぞれの声鬼やらふ

夫の背のてんたう虫を掴みけり

守宮の子追ひ出す朝のふたりかな

永き日や娘の家へ仔犬見に

秋つばめ娘が顔を見せに来る

この道を行けば娘の家冬董

娘の家に遊び過ぎたる夕焼かな

娘を訪ひし疲れありけり鰯雲

学校のネットフェンスの花南瓜

担任を呼ぶ拡声器ねこじやし

赤とんぼ組体操の崩れたる

学校のロッカーの上の青蛙

給食の煮物の匂ふ刈田かな

運動会天王山に雲一つ

冬木の茅ハワイの旅に誘はるる

淀屋橋水豊かなる年の暮

つくつくぼふしばかりとなりし男山

墓参あと都ホテルに寄りにけり

紅白の萩のこぼるる盥かな

空蝉の土の乾きて吹かれをり

町会の草刈の皆化粧して

長生きも大へんらしき櫛紅葉

年用意犬の首輪を買ひにけり

松の木にインコ来てゐる小正月

小さくて空の色していぬふぐり

母よりの法事の案内豆の花

連翹をを大きく揺らし小鳥たつ

花明り並べ見せらる胃の写真

ドア入りしのちに匂へる沈丁花

啓蟄の庭に飛び込むブーメラン

朝ぐもり真青に茹でしアスパラガス

献血の出来ぬ齡や聖五月

金魚掬ふ両の袂を母が持ち

茗荷の子掘りし手に受く回覧板

夕焼やブロックの上の土団子

雲一つそおつと歩く目高採り

帰省子の留守の日多し雲の峰

雀来て砂浴びしをり朝曇

八朔の棚に置きある万歩計

秋つばめ文字大き辞書夫と買ふ

著者略歴

波田美智子（はだ・みちこ）

大正12年 広島県廿日市市に生まれる

昭和58年 京都府八幡市の俳句教室（火星同人故竹森雄
風先生指導）に参加

昭和62年 「火星」入会

平成9年 「火星」同人

現住所 〒614-8353 京都府八幡市西山丸尾4-3

電 話 075-983-0777

句集 をりをりに

2002年8月5日 発行

定 価：本体2800円（税別）

著 者 波田美智子

発行者 本阿弥秀雄

発行所 本阿弥書店

東京都千代田区猿楽町2-1-8 三恵ビル 〒101-0064

電話 03-3294-7068（代） 振替 00100-5-164430

印 刷 三和印刷+大竹美術

製 本 山田製本印刷

©Hada Michiko 2002

ISBN 4-89373-840-2 (1651)

PDF製作 俳誌の *salon*